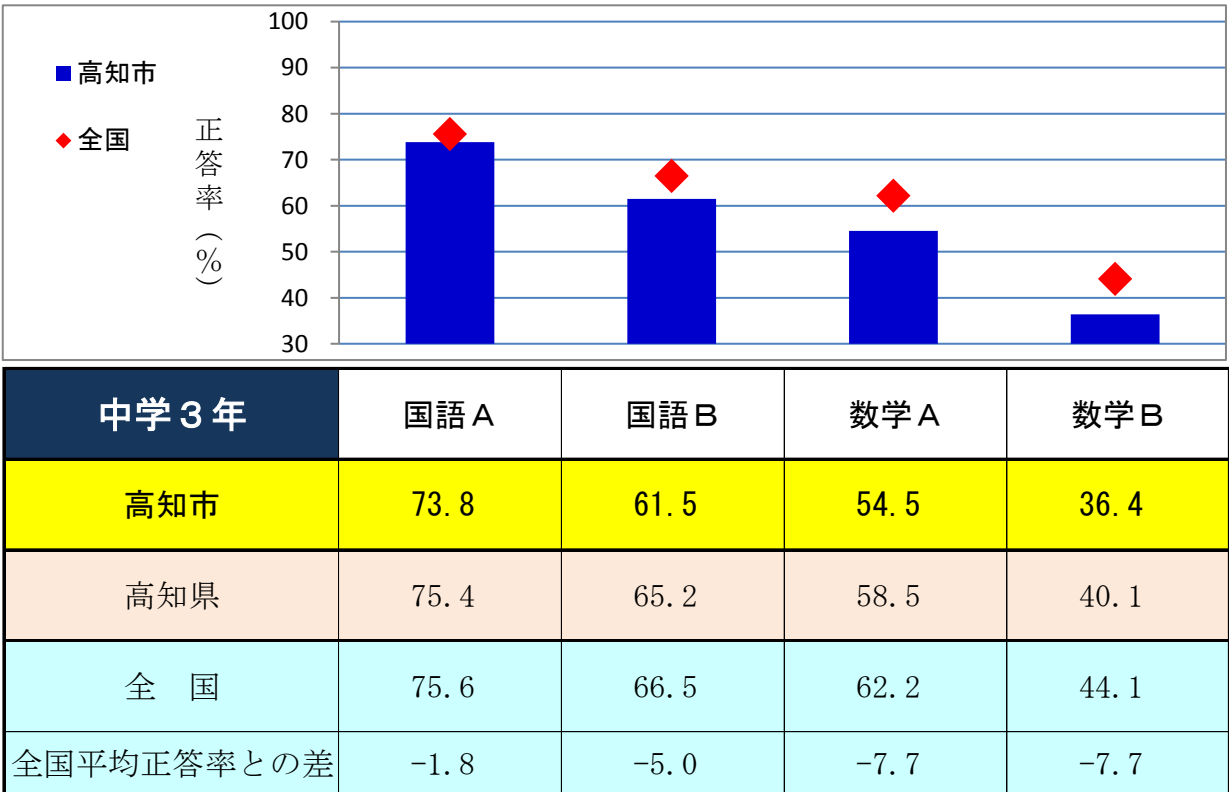
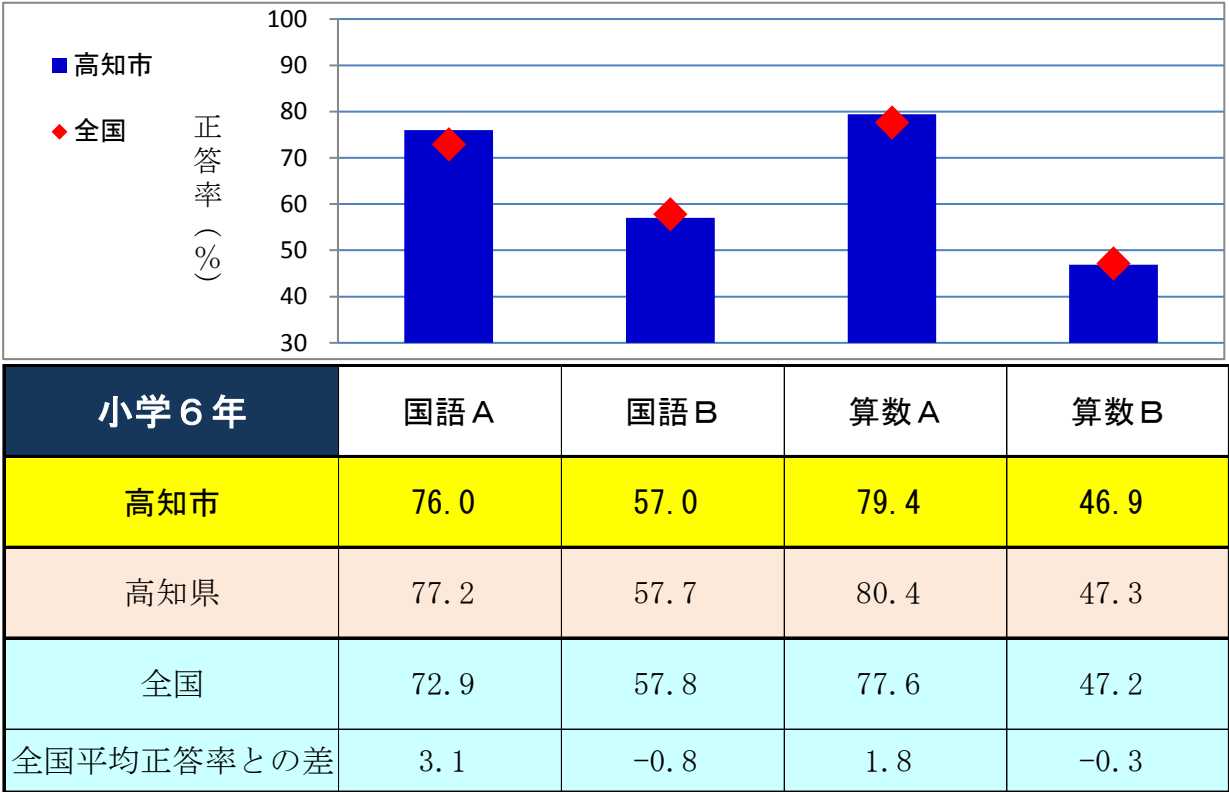


平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

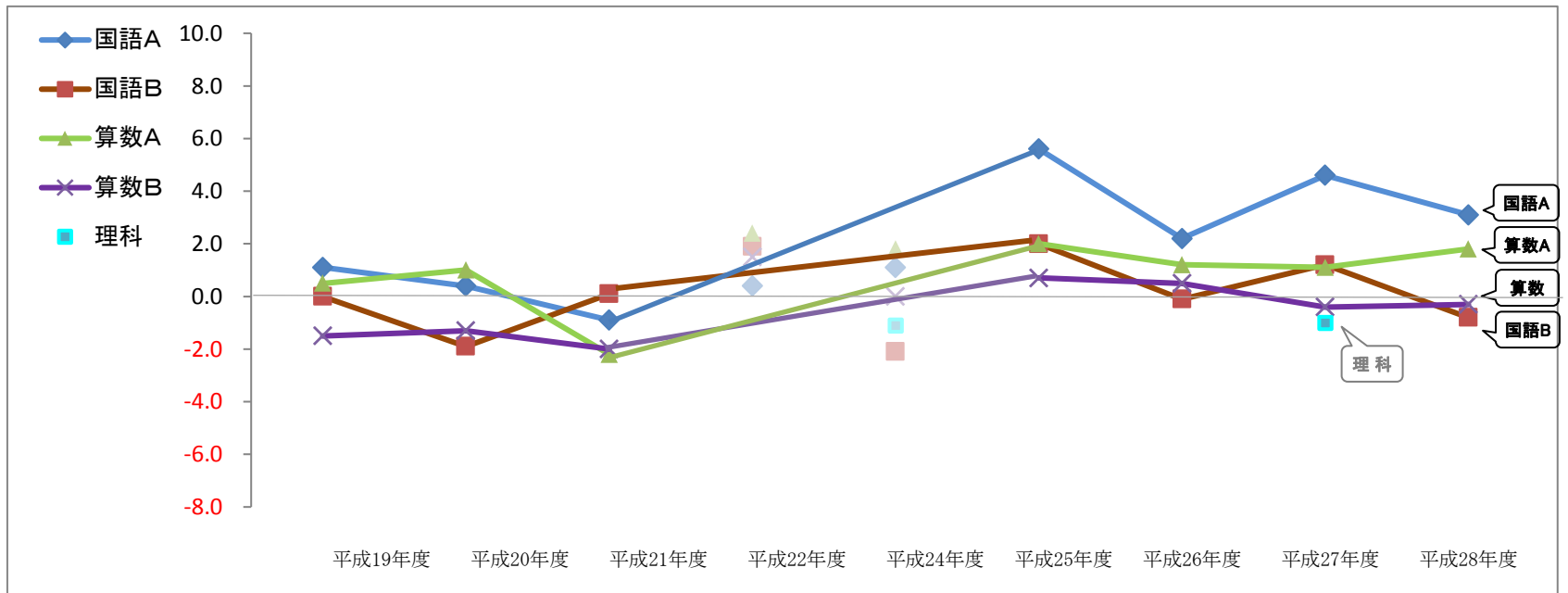
平成 28 年 9 月 29 日
高知市教育委員会 学校教育課

平均正答率



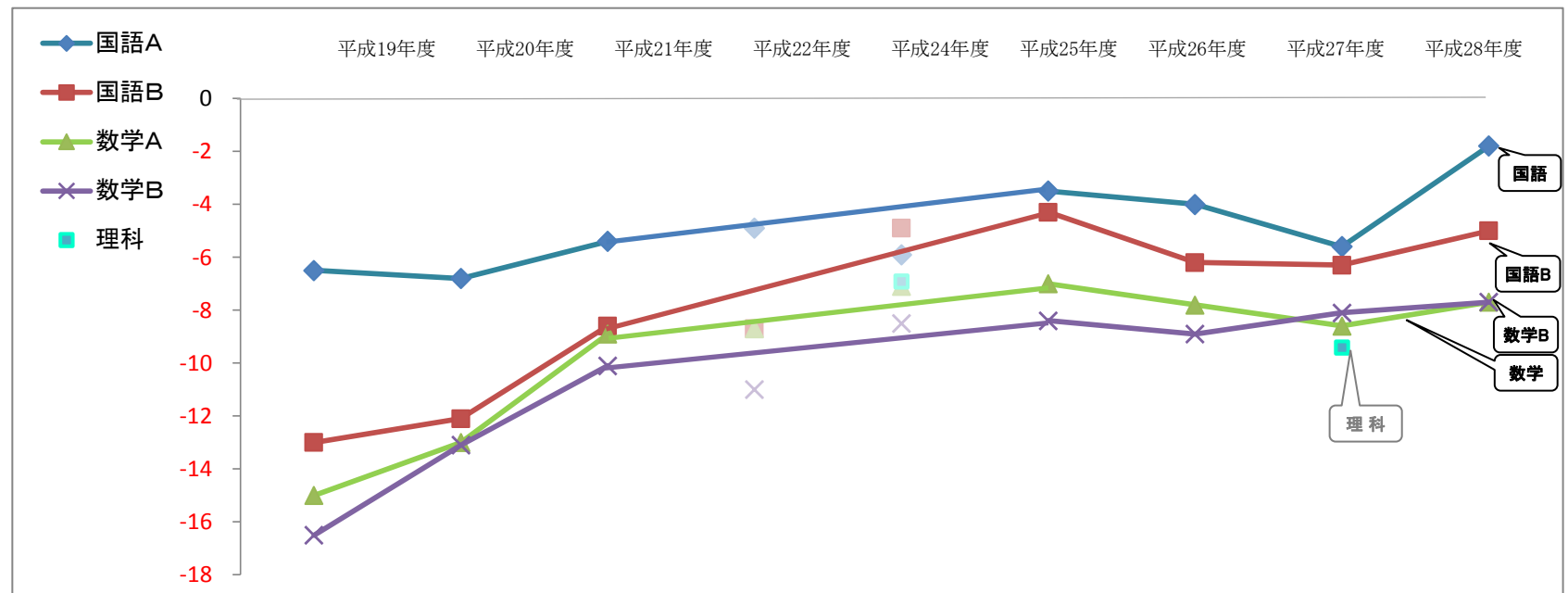
平成19～28年度における高知市平均と全国平均の差の推移

小学校



高知市の小学校の平均正答率は、国語Aにおいて3.1ポイント、算数Aも1.8ポイント全国平均を上回りました。B問題においては国語・算数ともに全国平均を若干下回りましたが、小学生については全国平均レベルを維持しています。調査結果から見た成果としましては、国語Aにおいて「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が昨年引き続き良い結果が見られています。また昨年まで課題であった、算数の「図形」領域においては、A・Bともに全国平均を上回る結果となりました。さらに、算数のB問題記述式において、全国平均正答率を上回る結果となっています。課題としましては、国語A・Bの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域において、全国平均正答率を下回る結果となり、さらなる手立てが必要とされます。これらの課題を改善するため、引き続き「子どもが分かる・楽しい授業をめざした『授業改善』」や「意図的な学びなおしの場の設定」等といった取組について、この調査結果を元に組織的に検証を行い、着実な改善を図っていきます。

中学校



高知市の中学生の平均正答率は、全教科において改善が見られました。特に国語Aでは、全国平均まであと1.8ポイントまで近づき、他の教科でも昨年から0.4から1.3ポイント向上しています。全国平均を下回る状況は変わっていませんが、改善傾向が見られていることは一定評価できるものと考えています。また、本年度生徒質問紙調査では、中学校で「学校の授業以外で全く勉強しない」生徒の割合が2年連続で全国平均を下回り、「1時間以上勉強している」生徒の割合が全国平均を初めて上回るといった成果も見られており、学習習慣が定着してきている生徒が確実に増えてきています。同調査中「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いは4割以上が強い肯定を示し、肯定的な回答は8割を大きく超えています。「自分にはよいところがある」という問いに肯定的に答えた生徒も7割を超えており、今後とも学力向上と学びに向かう人間性の育成の取組をすすめて行きたいと考えています。

学力向上 *Active* アクティブ・プラン

H28 年度 小学校における学力向上対策



取組の方向性はよい☑
成果も出ている☑
本年度のスタート良好☑
さらに
結果につなげるために

学力向上 *Active* アクティブ・プラン
H29～H32
3つのアクティブ

今ある事業の精度を高め、一つ一つの取組を **アクティブ**（機能的）に！

状況に応じた提案をし、学校の取組を **アクティブ**（主体的・組織的）に！

主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業を **アクティブ**（活性化するよう）に！

Active 1

各事業の RPDCA サイクルをまわす

取組の方向性はよく、成果も出ている。さらに結果につなげるために次の4点を通して改善を図る。

- ①「これだけは全小・中学校で共通して取り組む」内容について、学力向上プロジェクトチームの学校訪問と進捗管理
- ②授業アイデア例の配付と指導主事等の模擬授業
- ③学年末の「学び直しの場」を設定
- ④単元テストを活用した個人カルテ・検定の導入

Active 2

各校の状況分析と必要な手立ての提案をする

各校の学力調査結果や学力向上の取組を基に、A（取組が安定的に成果につながっている）・B（成果につながる取組ができていない）・C（諸条件により成果が出にくい）の3つのグループに分け、状況に対応した取組を複数提案（メニュー方式）する。

（案）H28 後期から（全小・中）状況別取組の提案と検証

Active 3

学習指導要領改訂に向けて教育課程を見直す

本市の課題のうち、【学びに向かう力】・【新しい教育課程の理解と共有】については、これまで事業として十分な取組ができていなかった。子どもたちに新しい時代を切り開いていく資質・能力を育むためにも、次期学習指導要領の理解と実践のためにも、これらの課題に対して新規事業を立ち上げ取り組むことが求められる。

（案）H29 新（全小・中、研究・教務、年3回）新教育課程に特化した研修
（案）H29 新（4小・1中）カリキュラム・マネジメントモデル事業

H28 年度 中学校における学力向上対策

